

K A W A K A M I D A M 2007  
川上ダム通信 8月号

独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所  
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)  
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

## 事業進捗へ向け大きく前進!

～国交省、「淀川水系河川整備基本方針」を策定～

川上ダムを含めた淀川水系の河川整備の基本となる「河川整備基本方針」が、平成19年8月16日付けで策定されました。

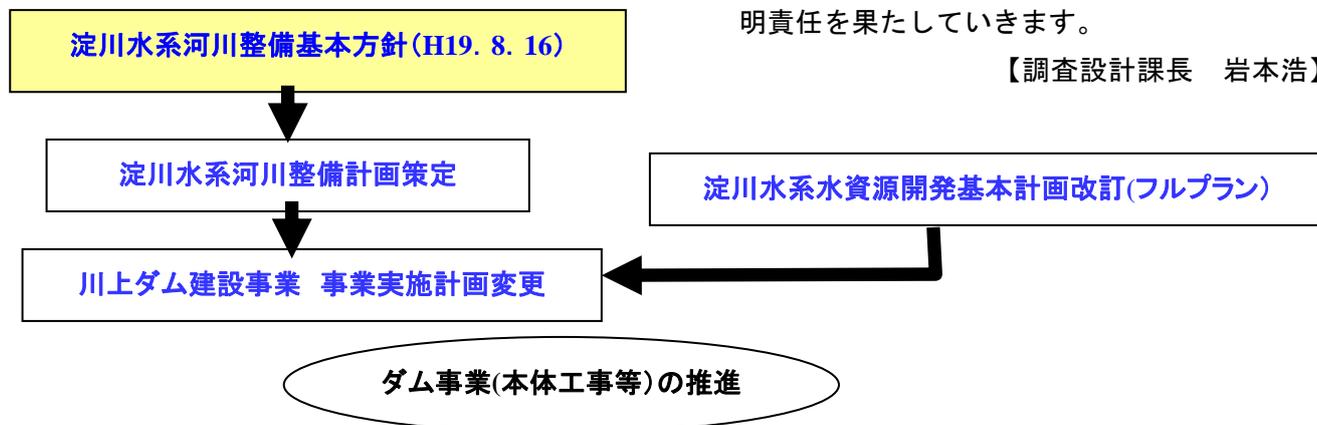
河川整備基本方針は長期的な視点に立った河川整備の基本的な方針を示したもので、川上ダム計画を位置づける上での柱の一つとなるものです。河川整備基本方針が策定されたことで、川上ダムができるまでの一つの段階をクリアしたことになります。

今後は、この河川整備基本方針に基づき20～30年後の河川整備の目標を定める「淀川水系河川整備計画」

の策定手続きを河川管理者で進めていくこととなりますが、当建設所としましても円滑に河川整備計画の審議が進むように事業者としての説明責任を果たしていきます。

【調査設計課長 岩本浩】

### 〈川上ダム本体着工に向けての法手続きの流れ〉



## 今年度比94%増の要求～平成20年度概算要求～

川上ダムの平成20年度予算については、8月31日(金)に国土交通省から財務省に対して概算要求されたところです。要求額は36億円で今年度のほぼ倍額(今年度18.47億円、今年度比約94%増額)の要求となりました。

これは本年度中に「淀川水系河川整備計画」の策定手続きが終了することを前提としているもので、来年度からは、ダム本体の関連工事(川の流れを切り替えるための工事など)に着手するとともに、引き続き、付替県道工事を進めていくための経費を要求したものです。また、本体関連の調査費、設計費、環境調査などの費用も要求しております。今後とも、河川整備計画の策定など法律の手続きが順調に進むことを願うとともに、川上ダム事業の進捗を図ってまいります。

【工務課長 北牧正之】

## 地域活性化の成功者に学ぶ～地域を学ぶ学習会～

8月27日（月）、三笥善八郎 前 大山町長（現：（株）おおやま 夢工房社長）を講師にお招きし、『連携と協働の地域経営～産業間の垣根、官民の境界、県境国境を越えて～』と題する地域（先進地事例）を学ぶ学習会を開催しました。川上ダム建設所職員だけでなく、地域の行政に携わる方も参加しました。

水源地域のエキスパートでもある三笥氏は、水資源機構が、現在、大分県（日田市：旧大山町）に建設中の大山ダム周辺地域活性化の原動力となり、民意主体となった地域おこしに成功された方です。学習会では、地域活性化へのこれまでの取り組みや今後の計画・課題などについて、実体験を交え、懇切丁寧にお話し下さいました。川上ダム建設所といたしましても、本学習会で学んだことを、今後の地域に根ざした業務の推進に活かして参りたいと考えております。



講演されるの三笥氏

【総務課 河合佳之】

## 豊田高専生、川上ダムの工事現場で実習

7月30日（月）～8月10日（金）の約2週間、豊田工業高等専門学校環境都市工学科から久保田秀さんが川上ダム建設所に実習に来られました。

実習内容は、主に道路工事の現場監督業務、重力式擁壁の検討、数量計算等の工事に関する作業を行って頂きました。実際の工事現場を見るのが初めてということで、非常に興味を持って作業を行っていました。機構や川上ダムで行っている事業の概要を理解することで、土木技術者としての様々な知見を得て頂いたと思います。 【工事課 田中幸志】

### 実習生にインタビュー

○実習を終えた感想は？

職員の皆さんが熱心に指導してくれて感謝しています。現場でなければ経験できないことをやれて良かったです。

○実習で印象に残ったことは？

工事現場でなるべく音を出さずに岩石の破碎を行うなど、環境影響への配慮をして工事を行っていることが印象に残りました。



工事現場での実習生（中央左）

## 真夏のわくわく見学会～青山文化センター「やまびこサークル」～

地元の青山文化センター「やまびこサークル」の皆さん（大人15名、子ども31名）が8月22日（火）に川上ダムの施設見学をされました。事務所内で川上ダムの説明を行った後、試掘坑及びオオサンショウ



横坑内を見学する皆さん

ウオ保護池の見学に出発しました。試掘坑（ダムを造る場所の地盤調査のために掘ったトンネル）では、実際に坑内の岩盤をハンマーで叩き岩盤の堅さを実感してもらいました。堅い岩盤は叩くと澄んだ金属音がすることから、参加した皆さんからは「良い音がするよ」などの声が聞かれました。オオサンショウウオ保護池では、保護池で生まれた幼生や成体の様子を観察しました。皆さんは、その大きさの違いに「こんなに大きくなるんだ」と驚いていました。【環境課 磯野正典】

## 広報ブースに1900人！～地元夏祭りで広報活動～

川上ダム建設所では、地元の各夏祭りにおいてブースを出展し、広報に努めました。

8月4日（土）に「桐ヶ丘夏祭り」（伊賀市桐ヶ丘）、8月5日（日）に「青山夏まつり」（伊賀市阿保）、そして8月18日（土）には、伊賀市中心部の銀座通り周辺で行われた「市民夏のにぎわいフェスタ 2007」において広報活動を行いました。

『地域の安全・安心を守る川上ダムを理解してもらおう』というテーマで参加し、ブース内にはダムの効果や水の知識を説明したパネルを展示しました。パネルから出題されたクイズには総計約1900人の方が挑戦されました。クイズを通じて川上ダムに関心を持ち、その役割を知ってもらえたと思います。

【総務課 武村剛泰】



桐ヶ丘夏祭り（左）→  
青山夏まつり（右）

## 木津川河川敷で川の大切さを体感！！

8月4日（土）、伊賀市阿保の木津川河川敷で「第7回 河川環境フェスティバル」（川上ダム建設所などをつくる同実行委員会主催）が開催されました。



アユを捕まえる子ども

この催しは、川の大切さを肌で感じてもらうと毎年実施されているものです。川上ダム建設所も、川上ダムの目的などを説明したパネルの展示を行うなど参加しました。この催しの目玉であるアユのつかみ取りでは、元気な子どもは河川敷内に設置した生け簀に放たれたアユを、服が濡れることも気にせず追いかけて、アユを捕まえては歓声を上げ喜んでいました。このイベントを通じて、地域の皆さんが川の大切さを感じることが出来たのではないかと思います。【第二用地課 中間健一】

## 川上ダム事業進捗状況の紹介 付替県道松青線第5工区（その8）工事

川上川沿いの種生地内において施工中の「付替県道松青線第5工区（その8）工事」について現況を報告します。

本工事は、施工延長180m、幅員8mで現県道との取付け部分に当り、現在までに掘削、盛土等の作業が終了し、側溝やガードレール等の付属施設を残すのみとなっております。地域の皆様には工事でご迷惑をお掛けしましたが、本工事も平成19年9月27日には完了予定です。今後も工事施工は慎重に行いますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

【工事課 田中幸志】



付替道路(右部)と現県道(左部)の  
取付部分 (H19.8.24撮影)

# ちよつとオオサンショウウオ！

## 成育のはなし(その3)

前回は、オオサンショウウオが幼生から成体へ変態するまでをお話ししましたが、それでは成体になってからは、どのように成長していくのでしょうか？

川上ダムがこれまでにやってきたオオサンショウウオ調査では、前深瀬川や川上川でオオサンショウウオを捕獲後、身体測定等を行い、捕獲地点に戻しています。その際、身体に標識を付けて置き、その後の調査で個体を確認したときに、その個体が初めて見つけたものか、以前に見つけたことがあるものかが分かるようにしています。



このようにオオサンショウウオの個体を識別できるようにしてあるので、同じ個体を何回も見つけれれば、以前に見つけたときの大きさと比較をすることにより、どのくらいの期間で、どのくらい大きくなったのか知ることができます。これまでの調査において、最初に捕獲した時点から最長で10年経過後の再捕獲個体の記録がありますが、この時の個体の成長度は1年間に1cm未満でした。【環境課長 大村朋広】

## 第2回

### ちかた 藤原千方伝説地探訪

#### 〈大門跡〉

千方の城だった千方城の正門跡地と言われ、石柱が折損したと言われています。西に数百mの大通りがあったと伝えられています。



大門跡

※千方窟周辺遺跡への行き方

近鉄青山町駅から高尾行きバス 25分高尾保育所前下車徒歩 1時間

## EVENT

### 伊賀市青山支所からのお知らせ

青山ハーモニー・フォレストは、川上ダム周辺整備事業の一環で、「都市と農村の交流の場」として伊賀市種生地内に伊賀市が整備しているもので、豊かな自然と触れ合い、体験できる施設です。

自然体験学習などに利用できる学習棟をはじめ、芝生広場やオートキャンプ場、バーベキュー場、遊具施設等の施設が整備されております。

利用時間や料金等詳しいことはお問い合わせ下さい。

#### 【問い合わせ先】

青山ハーモニー・フォレスト管理棟 Tel.0595-55-2255  
伊賀市青山支所ダム周辺整備課 Tel.0595-52-3222



オートキャンプ場



バーベキュー場

## 編集後記

連日の猛暑で、体には厳しい日々が続いていましたが、8月末になってようやく気温が低い日もみられるようになりました。食事・睡眠を十分ににとって、残りの夏を乗り切っていきましょう。

#### 【広報誌発行事務局】

編集長 酒井 進 (川上ダム建設所長)  
デスク 上村 信幸 (総務課長)  
" 北牧 正之 (工務課長)  
通信記者 武村 剛泰 (総務課)  
" 立石 浩行 (調査設計課)  
" 磯野 正典 (環境課)



ISO14001 : 2004  
JQA-EM5769

☆☆☆皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。ハガキやメール等でどしどしお寄せください。☆☆☆  
◇川上ダム建設所は ISO14001 を取得し、環境保全を推進しています。この広報紙は古紙配合率 100%再生紙を使用しています。◇